校長室だより～燦燦～ №９０９

努力目標

2023.11.27

また、早すぎた。こう思うことが多い。出張などに出かける。会場に到着する時間が早すぎるのである。いつからこうなってしまったのか。教諭時代には、ギリギリに間に合わせるプロだった。あの頃は、ギリギリが多かった。

車のガソリンもエンプティランプが点灯しないと給油しない。ひどいときには、ランプがついてから、どのくらい走ることができるのか挑戦するときもあった。無謀である。それが、今では洗車の都合もあるが、３リットルしか給油しないこともある。同じ人間の行動とは思えない。

性格は変わらないが行動は変えられる。確かにそうかもしれない。振り返ると、仕事上のポジションや役割が、そうさせたように思う。仕事で、県内の学校に行くことがある。絶対に遅れるわけにはいかない。早めに目的地の近くまで行き、しかるべき場所で時間調整をする。あるいは、学校の入口を確かめてから、少し離れた所で時間調整をする。こんなことを繰り返していると、早めに行動することが当たり前になってくる。

校長先生が集まる会議がある。校長先生は早い。私よりも早めに来ている方が必ずいる。まだ、受付の準備ができていない。すでに並んでいる。こんな調子で、受付開始時間が早まることになる。それにしても、自分を含めて、校長先生というのは、なぜにあんなに早く来るのか。遅れるわけにはいかないというだけではないような気がする。

夏休みのことだった。生徒は登校してこない。したがって、８時までに行けばよいのである。頭ではわかっているのだが、ゆっくり行くことができない。７時４５分頃になると焦る。結局、７時１０分頃までには行っている。これでは、夏休みらしくない。

『最後はなぜかうまくいくイタリア人』という本がある。おもしろそうなので読んでみた。おかげで、いろいろなことを思い出した。そして、今の私の行動をイタリア人が見たら、どう思うのだろうと考えた。さぞかし滑稽だろう。

イタリア人に関して聞かれる苦情の最たるものが、時間にルーズだということだろう。だが、これには地方差がある。北部ドイツ語圏では、日本人並である。ミラノでもかなり時間を守る。問題は、ローマから南である。南に下るにつれて、どんどん時間にルーズになる。１時間遅れなど日常茶飯事である。どうやら、先にちゃんと来ている人より、遅れてきた人の都合を優先するようなのである。約束の時間は、あくまでも努力目標であるらしい。

ローマにいるときに、大家さんから食事の招待を受けた。時間通りに行くか、少し遅れていくか、家人と悩んだことを思い出した。「郷に入っては郷に従え」である。英語だと、When in Roma,do as the Romans do となる。ローマにいるときは、ローマ人がするように行動せよということである。

今、ローマに戻って生活を始めたら、自我が崩壊しそうである。日本人にとって、どのくらい遅れていけばよいのかを考えるのはむずかしいことである。